



今月の大槌とびと

前川寛さん

11月28日(土)、吉里吉里善兵衛についての資料956点が町有形文化財に指定されました。町の有形文化財が新たに指定されるのは25年ぶりで計21件になりました。今月は前川善兵衛の子孫にあたる前川寛さんにお話しを伺いました。

関わっていたいただいた方々に感謝

今回、有形文化財に指定されることになった資料は吉里吉里の自家の倉庫で保管していましたが、震災により流出してしまいました。しかし、所属していた消防団の仲間が活動中にがれきの中から見つけてくれて、母にも間違いのないことを確認してもらいましたが、なにしろ量が膨大で、しかもほとんどが海水に浸かってしまっていて、その時はどうすることもできませんでした。その後資料の修復洗浄などを行うボランティアのみならずと出会ったこときっかけに、若手県立博物館をはじめ多くの方々の協力していただきました。資料の修復と解析には9年もの時間を要し、関わっていただいた全ての人に本当に感謝しています。

今回指定を受けた資料は、前川家の歴史をはじめ町の歴史を知る上でもとても貴重な資料だと聞いています。一般公開なども予定されているようなので町民の方々のお役に立てばと思います。

受け継がれる「助け合い」のこころ

豪商として知られる前川善兵衛ですが、社会貢献事業もたくさん行っていたと子どもとき祖母からよく聞いていました。震災で本家が流され祖父も亡くなってしまうとき、自分の将来について一度立ち止まって考え、自分もそういう思いを引き継ぎ、少しでも人の助けになりたいと思うようになりました。

今は金石市の平田でデイサービスや小規模多機能施設などの介護事業を行っています。利用者の方はもとより、働く人、地域の人たちが支え助け合えるようになっていけたらと思います。

